

生活支援体制づくり協議体（地域包括支援センター佐鳴台 担当圏域レベル）開催報告書	
1 開催日時	令和 6 年 12 月 24 日 （ 火 ） 9 時 30 分 ～ 11 時 10 分
2 開催場所	西部協働センター 202・203講座室
3 参加者	19名 委員14名（佐鳴台7名、城北地区7名）、関係機関5名
4 協議の内容	1. 開会 2. 挨拶 3. 令和6年度第1回協議体会議の振り返り ・パワーポイント資料を用いて前回の振り返りをした。 他の圏域での取り組みについて ・パワーポイント資料を用いて紹介 地域での見守り活動とは ・パワーポイント資料を用いて再度振り返り、地域の見守り活動を進める取り組みを紹介 4. グループワーク ～地域での見守りの意識・関心を高めるためには～ 《Aグループ》 ・最近では自治会の定例会にて議事終了後、地域の見守りについての情報共有をしている。 生活支援体制づくり協議体に参加するようになり、地元地域でも少しずつ取り組んでいる。 情報の例：民生委員の関わりがなかった家庭にて体調の変化により寝たきりの状態にある。 夏場車中にて生活している男性高齢者など ・最近の自治会会合（組長が出席）にて、変わったことがないか聞くようにしている。（意図的に見守りについての情報収集） ・地域では介護に関する話題が多くなっている。老々介護が増えているように感じる。民生委員が把握しているかどうか？ ・救急隊員の対応について、救急車が地域で停車して自治会長として現場に向かうが搬送先などの情報を教えてくれない。身内や家族の方が駆け付けた時に情報提供したいが応対できない。緊急搬送時の仕組みについて消防等にも提案することも必要。⇒一定の役職（自治会役員や民生委員など）の方への情報提供はあっても良い。ご近所の方も関わりを持たなくなってしまう。 ・時代の流れなのか、ご近所で声掛けや会話をしなくなっているどんどん希薄になっていくような印象がある。 ・「見守り」と「おせっかい」の線引きが難しい。 顔が繋がっているのであれば良いが、中には関係を持とうとしない人もいる。 ・あんしん情報キット：知ってもらうことが重要。

できれば、65歳以上は全員配布するなどの取り組みが必要ではないか。

- ・あんしん情報キットについては、定期的に周知していくことが必要。
- ・あんしん情報キットの中身の情報が古いことがある。更新を呼び掛けているが新しい情報に更新されることも少ない。自分や家族の身を守るためのものであるとの意識を当事者にも高めてもらうことが必要。
- ・地域の中で食事会を開いているが、そこまで行くことが困難であるとか、知り合いが（友だち）がその場にいないので足が向かないなどの理由がある。
地域の中でつながりが持てるきっかけづくりをすることで、自然にお互いが気にし合い、身近な地域での見守りに発展していく。

人の関わりが生まれれば、いろんな情報が集まり行動するきっかけとなる。

また、関わりを広げていく人を発掘したり育てていくことも必要。

- ・ふれあい訪問は特に喜ばれる、普段顔を見せない方も物が貰えるとなると出てくる
- ・サロンのような集まりが苦手な人は一定数ある。特に男性。
- ・集いの場に出てこない人にどんな問題があるかで解決方法も変わってくる。
- ・先日のシニアクラブ定例会にて警察の方の講話があった、特殊詐欺防止のため電話機に録音機能をつけてくれるサービスがある。
- ・意識的にあいさつをしている、粘り強くすることで打ち解けることもある。
- ・見守りが見張りになってしまうと本末転倒。

その人の性格や志向があり、こちら側があまり求めすぎると伝わらないこともある。

- ・地道にポスティングしていくこと。
- ・サロンに出てくる人は良いが閉じこもっている人が問題。

様々な種類のサロンがあり、複数のサロンに出かけるような資源があれば良い

- ・見守りする側、される側のケーススタディも必要。
- ・地域の中で見守りの必要度にランク付けし（グループ分け）専門機関も含め見守りをするとは機能的なのでは。まずは見守りの必要な人がどの程度いるか？
- ・支援の必要な高齢者は特に変化激しい場合もある。皆で共有することが大事。
- ・高齢者のみならず、子どもや親子に関しても見守りの必要性がある家庭はある、そういったものも取り上げたい。

⇒子どもたちが高齢者の見守りに、高齢者が子どもの見守りになど。

- ・高齢者の見守りを形にしていけば、充分子どもや子育て家庭に順応できると思われる。

《Bグループ》

- ・チラシなどで情報提供をし続けることが大切。

個人でチラシ（情報紙）を出している。月1回、様々な情報を（民生委員）

- ・広報誌 住民はそこまで関心がない。
- ・会議に出ているメンバーの整理が必要な。では地域で活動する団体は多い。

横とのつながりや連携が必要→それらの整理が必要。

- ・自治会 イベントごとには人が参加をし、その時に多くの人と顔を合わせる。

- ・地域行事 コロナをきっかけにやり方の検討が必要。

色々な考え方の人がいる。

見守りの前に、行事のあり方を考える必要がある。

- ・自治会やサロンの担い手不足、次期担い手がいらない。

- ・特に子ども会の場合、人の入れ替わりも激しく、実情を知らない人が多い。
- ・高齢者の多くは見守りを必要としている。

仕組みづくり

- ・見守りする側

見守りになっている活動 … サロン、まつりなど

↓

見守りになっているということを活動者にも知ってもらうことが大切である。

あんしんネットワーク

- ・高齢者
 - ①仕事をしている人
 - ②行事に参加する人 自治会
 - ③出てこない人 民生委員

誰を見守りの対象をするのか？

- ・出ない人、支援を拒む人 ← 本当に支援が必要なのでは？

↓

もっと見守りが必要。 まずは、洗濯物・電灯などの様子を伺う程度でも
1回きっかけがあれば変わってくる。

- ・地域の学校・企業とのコラボ連携

学生とのコラボ・交流 → 担い手不足を緩和できるのでは

5. 事務連絡

- 6. 閉会 鴨江圏域生活支援体制づくり協議体 会長

5 今後の見通し・ 必要な対応

今回の協議体では、地域での見守りとして取り組まれていることについて情報共有をし、さらなる意識・関心を高めるためにどのような手立てが考えられるか意見を出しあった。また地域の行事や活動に参加することで、見守り見守られていると知ってもらうことが大切であるため、意識してもらえよう働きかけを行っていく。